

# 空き家改築、宿泊施設に

## 静岡理工科大ラグビーW杯へ提案

袋井市の静岡理工科大の学生が「ラグビーワールドカップ」に向けたまちの国際化を主題に市に政策を提案する「地域学講座」の最終発表会が18日、同大で開かれた。市は有用な意見を実際に各種事業に役立てる。

同大近くのエコパスタジアムでは、2019年にラグビーワールドカップ（W杯）が開催される。学生35人はスタジアム周辺のフィールドワークなどを経てグループごとに提案を発表した。

市内の現状を「一定数の観光客はいるが宿泊客が少ない」と指摘したグループは、増加傾向にある空き家を宿泊機能を備えたゲストハウスや、特産品を楽

しめるカフェと体験型の店舗へとする改築を唱えた。建築学科を有する同大の学生が設計に携わることや経費削減につながり、W杯後もスタジアムや周辺でのイベント開催時に活用できると主張した。

1年の名倉颯人さん(18)は「袋井市はW杯が開催されるという



W杯時の市内活性化へ提案する学生  
＝袋井市の静岡理工科大

実感がまだない。一般への大会周知も必要」と訴えた。

地域学講座は市と同大の包括連携協定の一環で、4年目。